

令和4年度

博士学位論文

内容の要旨

および

審査結果の要旨

閲覧

近畿大学大学院

商学研究科

商 学 研 究 科

令和4年度

(論文提出による)

花 木 正 孝

学位論文審査結果の報告書

氏 名 花木 正孝

生 年 月 日 昭和 40年 12月 4日

本 籍 (国籍) 日 本

学位の種類 博 士 (商 学)

学位記番号 第 2 6 号

学位授与の条件 学位規程第 5 条該当
(博士の学位)

論 文 題 目 SWIFT (TSU-BPO取引) の失敗が示唆するもの
—FinTech時代の貿易代金決済電子化への教訓と遺産

学位論文受理日 令和 4年 5月 10日

学位論文審査終了日 令和 4年 6月 29日

審 査 委 員
(主 査) 勝田 英紀
(副主査) 渡辺 泰明
(副主査) 稲葉 浩幸
指 導 教 員 勝田 英紀

論文内容の要旨

本研究は花木氏の10年余にわたるTSU-BPO取引の失敗原因の研究であり、貿易代金決済電子化を普及させる為に、必要な要件を示すことを目的としたものである。また、①TSU-BPO取引普及を阻んだ要因を指摘し、②この失敗がFinTechを活用した次世代の貿易代金決済電子化プロジェクトに与える示唆、③SWIFT、ICCが実現したURBPO750等、TSU-BPO取引の遺産といえる国際規則の内容を、どのように継承していくべきか、の3点について検討したものである。

本論文は、序章を含め9章から構成され、以下の論文に加筆修正したものである。

「序章 はじめに」においては、前掲の本研究の概要および目的ならびに検討事項をまとめている。

「第1章 貿易代金決済」では、花木正孝（2017年）および「貿易取引の技術的發展に伴う信用状統一規則規定の変遷」、『商経学叢』第63巻3号、227-23により、貿易代金決済及び、国際規則に関して、現状と課題を述べている。

「第2章 ICC規則」では、前掲論文（2017年）206-220頁及び、花木正孝（2012年）「URDG758改訂と今後の銀行保証業務に与える影響」、『日本貿易学会リサーチペーパー』創刊号（査読付き論文）、33-48頁及び、花木正孝（2015年）「TSU-BPOとフォーフェイティングの融合による新しい貿易金融」、『日本貿易学会リサーチペーパー』第4号（査読付き論文）、41-47頁により、貿易代金決済に関連するICC制定の国際規則に関して、現状と課題を述べている。

「第3章 貿易金融」では、花木正孝（2016年）「中小企業宛貿易金融取引における海上運送状活用の提言」、『港湾経済研究』第54号（査読付き論文）、137-139頁及び、花木正孝（2017年）「NACCSとの連携強化による貿易金融高度化」、『港湾経済研究』第55号（査読付き論文）、45-51頁により、貿易金融・与信管理の構造に関して、現状と課題を述べている。

「第4章 TSU-BPO取引の概要」では、前掲論文（2017年）、52-53頁及び、花木正孝（2014年）「SWIFT-ICCによるTSU-BPOが貿易金融に与える影響」、『日本貿易学会リサーチペーパー』第3号（査読付き論文）、1-16頁により、TSU-BPO取引の概要を説明している。

「第5章 貿易代金決済電子化の応用」では、花木正孝（2015年）「TSU-BPOとフォーフェイティングの融合による新しい貿易金融」、『日本貿易学会リサーチペーパー』第4号（査読付き論文）、47-51頁及び、花木正孝（2016年）「請求払保証取引へのTSU-BPO（URBPO）活用提言」、『国際商取引学会年報』第18号（査読付き論文）、71-78頁及び、花木正孝（2016年）「TSU-BPO取引の現状と今後～貿易金融電子化の可能性」、『商経学叢』第63巻2号、106-107頁及び、花木正孝（2017年）「NACCSとの連携強化による貿易金融高度化」、『港湾経済研究』第55号（査読付き論文）、53-57

頁により、貿易代金決済電子化の応用事例を紹介している。

「第6章 貿易代金決済電子化の推進体制」では、花木正孝（2016年）「海上運送状の活用による中小企業宛 TSU-BPO 利用促進の提言」、『日本貿易学会誌』第53号（査読付き論文）、31-42頁及び、花木正孝（2018年）「TSU-BPO 取引活用による地域金融機関の貿易金融高度化」、『国際商取引学会年報』第20号（査読付き論文）、84-97頁及び、花木正孝（2020年）「貿易金融に関する共通インフラ設立の提案－業務委託による貿易金融サービス対象セグメントの拡大」、『日本貿易学会誌』第57号（査読付き論文）、19-33頁により、貿易代金決済電子化の推進体制についての提言を行っている。

「第7章 ポスト TSU-BPO 時代の電子化」では、花木正孝（2017年）「「フィンテック」の発展が外国為替業務に与える影響」、『日本貿易学会誌』第54号（査読付き論文）、43-55頁及び、花木正孝（2019年）「Blockchain 技術の発展が貿易金融に与える影響－Atomic Swap 技術による貿易金融再編」、『日本貿易学会誌』第56号（査読付き論文）、22-38頁及び、花木正孝（2020年）「TSU-BPO の失敗が示唆するもの－FinTech 時代の貿易金融への教訓と遺産」、『国際商取引学会年報』第22号により、ポスト TSU-BPO 時代の貿易代金決済電子化について説明している。

「終章 将来への示唆」では、TSU-BPO 取引失敗を踏まえて、今後の貿易代金決済電子化スキームに必要とされる要件を検討し、総括を行っている。最後に、受託専門銀行に関する詳細な制度設計や、これに留まらず貿易金融以外の銀行業務への応用も課題と捉え、銀行の機能は社会インフラといえ、これを必要に応じて解体（Unbundle）、再編成（Rebundle）することについて検討することの意義を考え、今後発展が期待される FinTech との親和性を考え、今後この方面の研究を進めてゆくとしている。

論文審査結果の要旨

花木正孝氏の令和4年3月31日までの研究業績は、学会リサーチペーパー3編を含む査読付き論文18編（単著）、学内紀要論文3編（単著）、その他論文2編（単著）、著作の分担執筆4編（共著）、その他2編（単著）、研究発表36件である。研究内容は一貫して「銀行外国為替業務に関する研究及び提言」であり、国際規則、法令順守、貿易金融、SWIFT、FinTech等、様々な側面から外国為替にかかわる実務的な課題について研究している。

今回の博士学位申請論文は、花木氏の10余年にわたる銀行外国為替業務に関する研究の集大成であり、日本貿易学会、港湾経済学会、国際商取引学会の3学会でのリサーチペーパーを含む査読付き論文14編、紀要論文（商経学叢）2編、共同執筆書籍1冊から構成されている。

本論文の構成論文は以下の通りである。

第1章 花木正孝（2017年）「貿易取引の技術的発展に伴う信用状統一規則 規定の変遷」、『商経学叢』第63巻3号、227-231頁

第2章 前掲論文、206-220頁及び、花木正孝（2012年）「URDG758改訂と今後の銀行保証業務に与える影響」、『日本貿易学会リサーチペーパー』創刊号（査読付き論文）、33-48頁及び、花木正孝（2015年）「TSU-BPOとフォーフェイティングの融合による新しい貿易金融」、『日本貿易学会リサーチペーパー』第4号（査読付き論文）、41-47頁

第3章 花木正孝（2016年）「中小企業宛貿易金融取引における海上運送状 活用の提言」、『港湾経済研究』第54号（査読付き論文）、137-139頁及び、花木正孝（2017年）「NACCSとの連携強化による貿易金融高度化」、『港湾経済研究』第55号（査読付き論文）、45-51頁

第4章 前掲論文（2017年）、52-53頁及び、花木正孝（2014年）SWIFT-ICCによるTSU-BPOが貿易金融に与える影響」、『日本貿易学会リサーチペーパー』第3号（査読付き論文）、1-16頁

第5章 花木正孝（2015年）「TSU-BPOとフォーフェイティングの融合による新しい貿易金融」、『日本貿易学会リサーチペーパー』第4号（査読付き論文）、47-51頁及び、花木正孝（2016年）「請求払保証取引へのTSU-BPO（URBPO）活用提言」、『国際商取引学会年報』第18号（査読付き論文）、71-78頁及び花木正孝（2016年）「TSU-BPO取引の現状と今後～貿易金融電子化の可能性」、『商経学叢』第63巻2号、106-107頁及び、花木正孝（2017年）「NACCSとの連携強化による貿易金融高度化」、『港湾経済研究』第55号（査読付き論文）、53-57頁

第6章 花木正孝（2016年）「海上運送状の活用による中小企業宛TSU-BPO利用促進の提言」、『日本貿易学会誌』第53号（査読付き論文）、31-42頁及び、花木正孝

(2018年)「TSU-BPO 取引活用による地域金融機関の貿易金融高度化」、『国際商取引学会年報』第20号(査読付き論文)、84-97頁及び、花木正孝(2020年)「貿易金融に関する共通インフラ設立の提案 7 –業務委託による貿易金融サービス対象セグメントの拡大」、『日本貿易学会誌』第57号(査読付き論文)、19-33頁

第7章 花木正孝(2017年)「「フィンテック」の発展が外国為替業務に与える影響」、『日本貿易学会誌』第54号(査読付き論文)、43-55頁及び、花木正孝(2019年)「Blockchain 技術の発展が貿易金融に与える影響 –Atomic Swap 技術による貿易金融再編」、『日本貿易学会誌』第56号(査読付き論文)、22-38頁及び、花木正孝(2020年)「TSU-BPO の失敗が示唆するもの –FinTech 時代の貿易金融への教訓と遺産」、『国際商取引学会年報』第22号(査読付き論文)、145-153頁

終章 前掲論文、153-158頁

貿易代金決済、貿易金融に関する実務的解説として、石原伸志、小林二三夫、花木正孝、吉永恵一(2019年)『改訂 新貿易取引 –基礎から最新情報まで–』「第3章 外国為替」(執筆担当:花木正孝)、経済法令研究会、65-80頁、127-132頁、111-126、175-177頁

以上の論文等で構成された「銀行外国為替業務に関する研究及び提言」を内容とする論文を令和4年6月29日に公聴会を開き、同令和4年6月29日に最終審査を行った。最終審査においては、主査勝田英紀、副査渡辺泰明教授、稲葉浩幸教授とともに審査を行い、博士(商学)の学位を授与するに値する研究であると判定した。